

図書紹介

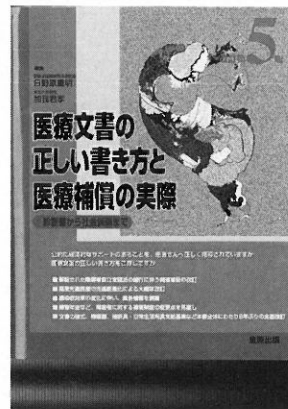
医療文書の正しい書き方と医療補償の実際 (改訂第5版)

監修：日野原 重明・加我 君孝

加我 君孝

東京医療センター

臨床研究センター（感覚器センター）センター長



本書は平成5年に第1版を発行し、その後、平成7、8、12年と改訂を続け、第5版は本年の3月に7年ぶりの大改訂を行い発行したばかりである。この本は、小生が帝京大学の助教授（耳鼻咽喉科学教室）の時の平成3年に企画したもので、出版社の企画ではない。当時、研修医を毎年教育しながら、死亡診断書や育成医療や身体障害者診断書・意見書などの書き方の手本となるようなテキストがないことに気がついた。そのため研修医は、その診断書の生まれた制度の背景を知らずに、記入せざるを得なく、現在もなおそのような現状が続いているのではないであろうか。企画にあたって、各分野の専門家は、帝京大学や東京大学の友人を中心に選び、出版社はかねてから小生の本の出版を担当したことのある金原出版の大寺敏之編集長にお願いした。共同の監修者に聖路加国際病院の日野原重明先生にご依頼した。日野原先生は現在95歳で聖路加国際病院の理事長として、年150回の講演、シルバー老人の会の会長、理想を追求するヒューマンな随筆などで大活躍されている私が最も尊敬する医師である。初版の平成4年は81歳で、序文に「大学を卒業して病院に勤めたり、開業しても、後輩に文書作成の要領を教える先輩は少ない。今後ますます増加が危惧される医療事故や医療訴訟、公害や事故による医療補償に対する医療文書のニーズは非常に大きくなるものと思われる。そのような将来を考えると、医療文書の実際的な例示をし、それに注解をつけて、正しい医療文書の書き方を教育指導することは緊急を要することである。正しく書かれる医療文書は医療のレベルを高め、医療の倫理性や社会性をも高めることに間接的に連なるものといえよう。」と書かれ、すでに14年前にその後の「医療をとりまく社会環境の変化」を予言しているかのような記述である。

本書は初版が2万部も売れ、その年の医療関係の出版物のベストセラーランキング2位であった。小生はぜひ、研修医や専門医を目指している若き医師が医療公文書を書く際に座右のテキストとして大いに活用するように期待している。診断書の背景にある医療や社会保障制度のことを学んで欲しいからである。

図書紹介

原稿募集

このコーナーへの投稿をお待ちしております。ご執筆された著書などの紹介を掲載しています。600～1,000字程度で編集室までお寄せください。

〒152-8902 目黒区東が丘2-5-1

国立医療学会誌「医療」編集室「図書紹介コーナー」係宛

e-mail: iryo@kankakuki.go.jp

Fax: 03-3411-9421